

脊柱側弯症の治療はまず装具による保存療法です。

しかし進行した場合や、今後全身状態の悪化が見込まれる場合には手術療法を行います。

## 特発性側弯症

基礎疾患のない側弯症で、思春期の女兒に多く、日本人での発生率は2~3%とされる。進行するリスクが高い症例ではまず装具治療を行う。ある程度以上に進行すると骨成熟後も悪化するため、手術が必要になる。

## 麻痺性側弯症

脳性麻痺、脊髄性筋萎縮症など麻痺性疾患に伴う側弯症。高度に進行すると胸郭変形による拘束性換気障害と椎体による気管への圧排による閉塞性換気障害をきたす。

## 症候性側弯症

症候群や染色体異常に伴う側弯症。幼児期に発症するものは進行が早い傾向にある。

## 先天性側弯症

先天的脊椎奇形がある側弯症で、半椎症では5歳前後での手術が必要になることがある。

## 早期発症側弯症

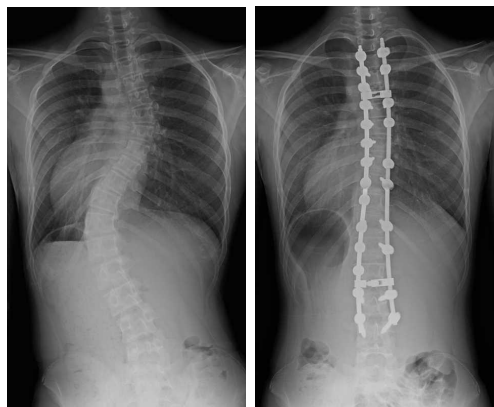
10歳未満に発症する側弯症の総称。

8歳未満での進行は胸郭形成不全を合併し生命予後に関わるため骨成熟まで複数回の手術が必要になる。

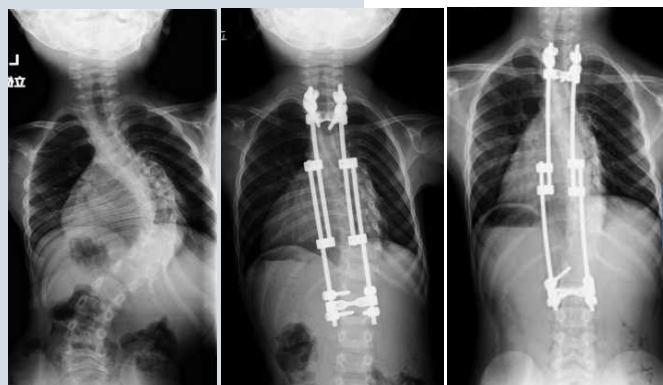


治療前

治療後



高度変形例に対する3Dモデル作成



早期発症側弯症に対する Growing Rod 法